

# ネイチャー・ウォーク

令和3年7月

2021.7.18発行

(通巻第331・332号)

ECO  SAITAMA 公益財団法人 埼玉県生態系保護協会

部会：自然を歩く会

## ■6月のネイチャー・ウォーク

# 名の知れた それがこの鳥 コウトリ

(JR 宇都宮線 野木駅 ~ 部屋南部桜づつみ公園バス停)

3月に秋ヶ瀬を歩いて以降、4・5月はコロナの影響で中止。今回は緊急事態もマンボウも関係ない栃木県でのネイチャー・ウォーク。心配した天気もギリギリ持ちこたえ、久々の開催となりました。参加者3名と、少し寂しいものでしたが、なーに、アットホームに参りましょう！





駅前通りを歩いていると、はるか頭上に青色のテープが巻かれた電柱を発見。よく見ると付近の思川が氾濫するとこの高さまで水が来ますよということを示しているテープとのこと。こんな高さまで水に浸かるのかと、一同びっくり。



なんにでも興味津々な一行は、土手の草地や田んぼなど、生きもののいそうなところはすべてチェック。田んぼには今年生まれてばかりの小さなカエルがピョンピョン跳びまわっていました。カエルたち、虫をいっぱい食べて早く大きくなーれ。そして大きくなったらコウノトリの餌になーれ。(厳しいけどこれが生態系)

「あれなにー、コウノトリ!？」  
 「いや、あれはサギだね」  
 「だまされた…」

そんなこと言いながら歩いているうちに、いよいよコウノトリが繁殖した渡良瀬遊水地に近づいてきました。みな一生懸命になってコウノトリを探します。コウノトリを探すのにみんなの目タカの目です。

まず立ち寄ったのは、「渡良瀬遊水地コウノトリ交流館」。ここは古民家を改装してコウノトリ関連の写真展示や人々の交流のために用意された場所です。ここはさくっと通過して、早く遊水地に行こうよなんて考えていたのですが、しかし…





いましたー！コウノトリ交流館の電柱にお父さんコウノトリのひかる君が飛んできてくれました。みなさん夢中になって写真撮影。コウノトリとしっかり目が合っていました。



少し進んだ旧思川では、カイツブリ親子と腹をすかせたヘビとの、まさに「喰うか、喰われるか」の戦いの場に遭遇。カイツブリの子どもがヘビに丸のみにされてしまいました。（厳しいけどこれが生態系2）

渡良瀬遊水地といえば、ハート型の谷中湖が有名ですが、その裏側には広大な湿地が広がり、池が点在しています。実はこの池も、国が計画的に堀ったものなんです。そして池の周りのヨシが刈り倒されていますが、これはコウノトリが池の魚を採るための「足の踏み場」づくりということで、地域のボランティアの方が池を一周ぐるりとヨシを刈ったもの。みんなの力をあわせて渡良瀬遊水地のコウノトリがずっと暮らしてくれるようになるといいですね。



堤防上を大急ぎで歩いて、なんとかバス停に到着。栃木市営の小さなバスで帰路につきました。雨に降られず、コウノトリも見られてめでたしめでたし。